

3年生の実践（2年次 6月3日）

本時の視点

繰り返しお礼をするおじいさんを見ているぼくの気持ちについて考える場において、自分との関わりで考えられるように、吹き出し形式のワークシートを活用し、自分なりの考えを記述した後に話し合う活動を取り入れることにより、親切にすることのよさを理解し、実践への意欲化を図ることができるであろう。

1. 主題名 行為に表れない親切（B 親切，思いやり）

2. ねらいと資料

（ねらい）繰り返しお礼をするおじいさんの顔を見ているぼくの気持ちを考え、進んで親切にしようとする心情を育てる。

（資料名）「おじいさんの顔」

（出典；文溪堂「3年生のどうとく」）

3. 主題設定の理由

（1）価値観

本主題は、学習指導要領の内容項目「B 主として人との関わりに関すること」の「親切，思いやり」における第3学年及び第4学年「相手のことを思いやり，進んで親切にすること」を受けて設定されたものである。これは、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりの気持ちを持ち、親切にすることに関する内容項目である。

思いやりの気持ちを持ち、互いに励ましたり助けたりすることは、人が生きていく上で大切なことである。思いやりとは、相手の様子や状況を基に、その人の困っている気持ちや大変な思いなどを自分なりに推し量り、相手に寄り添う気持ちを向けることである。そして、それは、具体的に親切な行為として表れることが望ましい。どんな時にも、また、誰に対しても進んで親切にすることは、相手も自分も温かい気持ちになり、人間関係を和やかなものにしてくれる。したがって、思いやりや親切は、よりよい人間関係を築く上で大切なものであると考える。しかし、今日の社会では、個々のライフスタイル等の違いから、人と人との関わりの希薄さが課題となっている。そのため、思いやりや親切の意義を考え、実践していくことは、児童にとって価値あるものだと考える。

そこで、親切にすることのよさと大切さについて考える機会を設定することで、身近な人だけでなく自分と関わる様々な人々にも目を向け、相手のことを思いやり，進んで親切にしようとする意欲や態度をもてるようにしていきたい。このことは、本校の研修テーマ「ともによりよく生きようとする児童の育成」につながるものと考えられる。

（2）児童観（児童数31名）

本学級の児童は、困っている身近な友達に対して親切にすることができる。学級活動の時間には、係活動や当番活動を振り返る中で、思いやりの気持ちをもって役割を分担したり、協力して取り組んだりすることの必要性を実感してきた。また、帰りの会では、親切にされて嬉しかったことなどを発表し合うことで、親切にすることへの意欲を高めてきている。しかし、自分と関わりの少ない人に対しては、必ずしも親切にできるとは言えず、

相手のことを思いやる前に自分のことを優先する面が見られる。また、親切にすることはよいことだと分かっているとしても、消極的な気持ちから行動を起こせないことも少なくない。

これらのことから、児童は親切にすることが大切であることや、親切にされると嬉しい気持ちになることを理解してきているものの、時として進んで親切にできないことがあり、親切にすることのよさや大切さについて十分に考えを深めるまでには至っていない。

そこで本時では、相手の立場や気持ちになって考え、進んで親切にしようとするものの「深化」を意図し、相手も自分も嬉しく清々しい気持ちになるという親切にすることのよさについて考えを深められるようにしていきたい。

(3) 教材観

目の前で大きなため息をつきながら立っているおじいさんを見た際のぼくの気持ちを考えさせ、親切にする際の躊躇する気持ちについても気付かせることで人間理解を図りたい。次に、隣の人に席を譲ってもらい繰り返しお礼を言うおじいさんを見た際の主人公の気持ちを考える中心発問を行うことで、主人公のおじいさんに対する思いやりの気持ちに気付かせたい。さらに、具体的に親切な行為として表すことの難しさやよさを考える補助発問を取り入れることで、相手も自分も嬉しく清々しい気持ちになるという親切にすることのよさについて考えを深められるようにしていきたい。

4. 指導方針

〈研究主題に迫るために〉

○学級に安心して話せる温かい雰囲気をつくるために、間違いを気にせず自分の考えを発表することや友達の意見を肯定的に聞くことの大切さ等を継続的に指導する。

〈事前〉

○親切にすることのよさを感じられるようにするために、帰りの会で、一日を振り返って、友達に親切にしてもらって嬉しかったことなどを発表し、それを「ぽかぽかの木」として掲示する。

〈本時〉

【課題をつかむ】

○ねらいとする価値を意識できるようにするために、自分が親切にしてもらった経験を発表する場を設定する。

【価値を追求する】

○多様な考えに触れ合い、効果的な話し合いを進められるようにするために、座席をコの字型にし、ペアや学級全体で考えを伝え合う場を設定する。

○話の雰囲気に浸り、内容への興味・関心をもてるようにするために、紙芝居を用いて資料を紹介する。

○おじいさんに対する主人公の気持ちを考えられるようにするために、繰り返しお礼をするおじいさんを見た際の主人公の気持ちを問いかける。

○主人公の気持ちについて自分なりの考えをもてるようにするために、話し言葉で記述できる吹き出し形式のワークシートを用意する。

○親切にすることのよさについての考えを深められるようにするために、補助発問を設定する。

【価値の内面化】

○価値への自覚を深められるようにするために、親切にすることに対する自分の経験や、これからの生活で大切にしていきたいことをワークシートに記述する場を設定する。

○親切な行為ができた自分を実感し、実践意欲をもてるようにするために、学習を通して

親切にすることに対して自分なりの考えがもてたことを称賛する。

○親切な行為ができた自分を実感し、実践意欲をもてるようにするために、親切にすることができた具体的な子どもの姿を紹介する。

〈事後〉

○親切な行為ができた自分を実感し、実践意欲をもてるようにするために、友達から親切にされた経験を振り返り、「ぼかぼかお手紙」を交換する活動を設定する。

○相手のことを思いやり、進んで親切にすることへの実践意欲を高められるようにするために、道徳の時間での話し合いの内容を学級通信を通して伝え、家庭と連携を図りながら定期的に道徳的価値について考える機会を設定する。

5. 本時の学習

(1) **ねらい** 繰り返しお礼をするおじいさんの顔を見ているぼくの気持ちを考え、進んで親切にしようとする心情を育てる。

(2) **準備** 教師：紙芝居 場面絵 ポイントカード ワークシート

児童：筆記用具

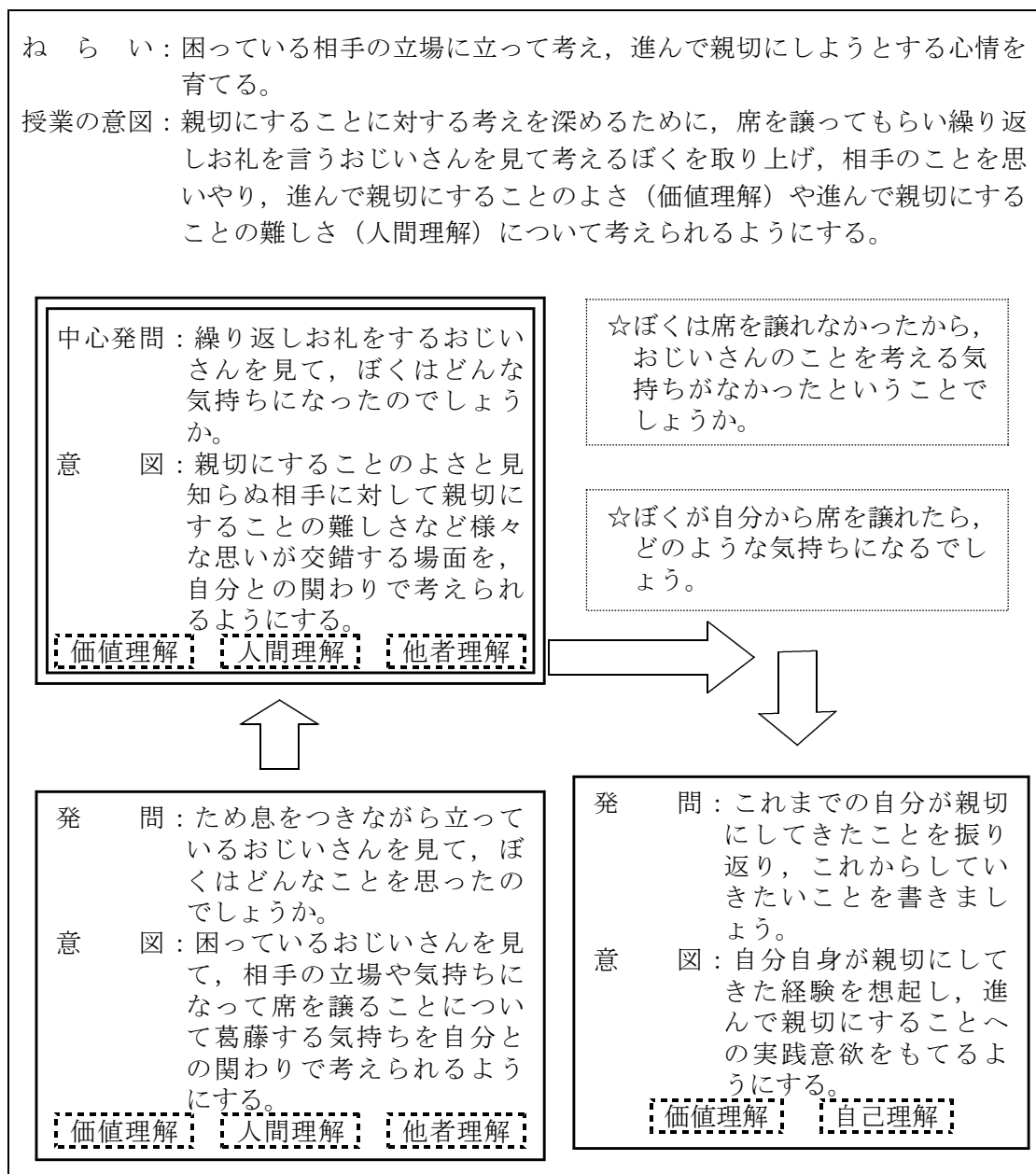
(3) 学習指導過程

過程	学習活動 (主な発問)	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点(・) 評価(◆)
課題をつかむ	1. 本時のめあてをつかむ。 (今までに親切にしてもらったことはありますか。)	<ul style="list-style-type: none"> 落とし物をしたときに拾ってもらった。 ケガしたとき保健室に連れて行ってもらった。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ポイントカードを掲示しながら「親切」にされた経験を問いかけることで、ねらいとする価値への方向付けをする。
価値を追求する	2. 資料「おじいさんの顔」を読んで、話し合う。 (1) 目の前で大きなため息をつきながら立っているおじいさんを見た際のぼくの気持ちを考える。 (ため息をつきながら立っているおじいさんを見て、ぼくはどんなことを思ったのでしょうか。)	<ul style="list-style-type: none"> ぼくも大変だったから、おじいさんに席を譲ろうかな。 席を譲ればおじいさんは楽になるけど、恥ずかしくて声を掛けられないな。 席を譲りたい気持ちはあるけど、なかなかできないな。どうしようかな。 <p>【価値理解】 【人間理解】 【他者理解】</p>	30分	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居を用いてゆっくりと読み聞かせをすることで、内容を把握できるようにする。 おじいさんを見た際のぼくの気持ちに共感させることを通して、知らない人に親切にするときの感じ方(躊躇・迷い)について考えられるようにする。 席を譲れない気持ちと席を譲ろうとする気持ちの考えに整理して板書することで、ぼくの葛藤する気持ちを捉えられるようにする。
	(2) 男の人にお礼	<ul style="list-style-type: none"> ぼくは席を譲れなか 		<ul style="list-style-type: none"> 繰り返しお礼をするおじいさ

<p>価値を追求する</p>	<p>を言うおじいさんを見た際のぼくの心の話を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>繰り返しお礼をするおじいさんを見て、ぼくはどんな気持ちになったのでしょうか。</p> </div> <p>☆ぼくは席を譲れなかったから、おじいさんのことを考える気持ちがなかったということでしょうか。</p> <p>☆ぼくが自分から席を譲れたら、どのような気持ちになるでしょうか。</p>	<p>ったけど、男の人に譲ってもらえてよかったな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変そうだったおじいさんが席に座れてほっとしたな。 ・おじいさんはとても嬉しそうだから、やっぱり大変だったのだな。ぼくが譲ればよかったかな。 ・声が掛けられなかったから、なんだかすっきりしないな。 ・席を譲ることはできなかったけど、おじいさんの気持ちを考えて、譲ろうかどうしようか悩んだのだから、思いやりの気持ちはあったと思うな。 <p>【価値理解】 【人間理解】 【他者理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくも気持ちよくなってお互いに嬉しい気持ちになれるよ。 ・よい気持ちになって、笑顔でいられると思うな。 <p>【価値理解】</p>	<p>んを見た際のぼくの気持ちを問いかけることで、おじいさんに対するぼくの気持ちを考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの気持ちを話し言葉で記述できる吹き出し形式のワークシートに考えを記述するよう促すことで、自分なりの考えをもてるようにする。 ・ペアや学級全体で考えを伝え合う場を設定することで、多様な考えを共有できるようにする。 <p>・席を譲らなかったことを基におじいさんのことを考える気持ちの有無を問い返すことで、ぼくにはおじいさんを思いやる温かい気持ちがあったことに気付けるようにする。</p> <p>◆自分から進んで親切にすることについて考えを深めることができたか。 (ワークシート、発表、つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から席を譲れたときの気持ちを問いかけることで、自分も相手も清々しい気持ちになれる親切にすることのよさに気付けるようにする。 ・ぼくとおじいさんの表情イラストを用いて互いの気持ちを整理して板書することで、親切にすることのよさを視覚的に捉えられるようにする。
<p>価値を内面的に自覚</p>	<p>3. これまでの自分を振り返る。(これまで自分が親切にしてきたことを振り返り、これからしていきたいことを書きましよう。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物が見つからなくて困っていた友達がいたから一緒に探してあげたことがあったな。これからも相手の気持ちを考えて、自分からできることをしていきたいな。 <p>【価値理解】</p>	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を振り返り、これからの自分について記述するよう促し、一人一人の価値の内面化が図れるようにする。 ・自分なりに考えをもてたことを称賛し、これからの生活への意欲をもてるようにする。 <p>◆親切にしたときの経験を振り返ることで、親切にすること</p>

する		【自己理解】	のよさについて自分自身との関わりで考え、思いや課題を培うことができたか。 (発表・ワークシート)
	4. 教師からの説話を聞く。	【価値理解】	・親切にすることができた具体的な子どもの姿を紹介することで、自己肯定感と実践への意欲をもてるようにする。

6. 資料分析図 「おじいさんの顔」



7. 児童記録 (T:教師 C:児童)

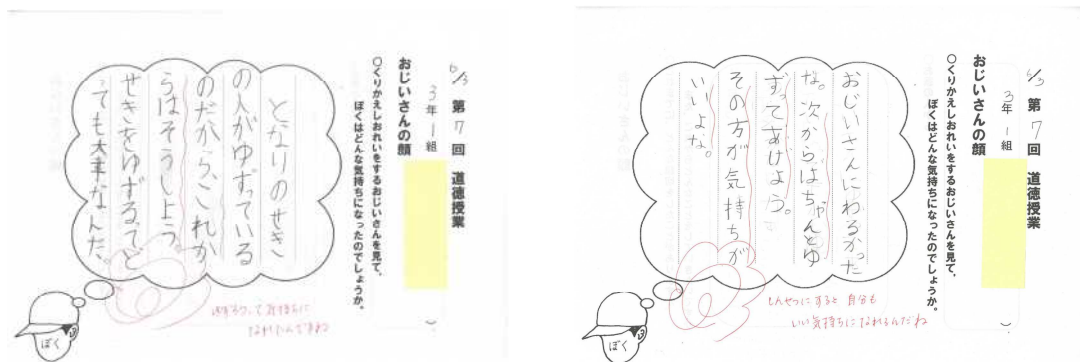
T:席を譲ってもらい、繰り返しお礼をするおじいさんを見て、ぼくはどんな気持ちになったでしょうか。(中心発問)

主人公の気持ちについて自分なりの考えをもてるようにするために、話し言葉で記述できる吹き出し形式のワークシートに記述してから発表を行った。記述する前に、落ち着いて取り組めるようにいったん目を閉じて場面確認をしながら発問を行った。

T:目を閉じてください。となりの人が席を譲ってくれて、おじいさんは嬉しそうな顔で何度もお礼を繰り返している場面だね。そんな、おじいさんを見てぼくはどんな気持ちになったかな?はい。目を開けて書き始めましょう。



おじいさんを見たときのぼくの気持ちについて自分の考えをまとめている。



(以下、ワークシートを基に伝え合い)

となりの人は、やさしいな。ぼくも勇気を出し譲ればよかった。今度は譲ってあげよう。

- T:となりの人のこと書いた子いる?
 C1:えらいな。ぼくもあんな人になりたいな。
 T:どうしてえらいの?
 C2:席を譲ってあげたから。
 T:他のことを書いた人はいる?
 C3:おじいさんがすわれてよかったな。ぼくも譲ればよかったな。



T：同じように、譲ればよかったなってことを書いた人はいる？

ぼくも譲ってあげればよかったな。譲る勇気がなかったなあ。今度、年をとっている人がいたら譲ってあげよう。



おじいさん、うれしそうでよかったな。ぼくも譲ってあげたかったな。今度は自信を持って譲ってあげよう。

T：ぼくが、席を譲れなかったんだけど、席を譲れたとしたらどんな気持ちになるかな？

C 4：嬉しい気持ち。

C 5：よかったなという気持ち。

C 6：ぼかぼかな気持ちになれる。

7. 板書



8. 成果と課題 (○成果 ●課題)

【価値を追求する】

- ワークシートに書いてから発表することで、一人一人が自分の考えをきちんと持つことができた。
- 目をつぶり、場面を振り返ってからワークシートに取り組みさせることで、落ち着いて振り返り、考えることができた。
- 発問を精選することで、中心発問について十分に時間を確保することができた。
- すっきりした板書で、考えを深めるのに有効であった。
- 教師の板書のイメージが強いため、板書と児童の発言にぶれがあった。